

第1回津島市総合戦略策定委員会

日時：平成27年9月25日

場所：市役所5階 委員会室

【配布資料】

- 資料1 津島市総合戦略策定委員会設置要綱
- 資料2 津島市総合戦略策定委員会委員（名簿）
- 資料3 地方人口ビジョン、地方版総合戦略
- 資料4 津島市総合戦略等策定スケジュール
- 資料5-1 ユース世代未来創造ワークショップ 開催結果報告
- 資料5-2 同 結果概要
- 資料6 津島市の将来人口のシミュレーション
- 資料7 津島市の人口動向等
- 資料8 人口等の動向及びアンケート調査結果のまとめ
- 資料9 各種アンケート調査 単純集計結果
- 参考1 職業安定所の武山委員より、津島市総合戦略関係資料
- 参考2 今年8月に実施した各種アンケートの調査票

開 会

挨拶

（日比市長）

みなさん、こんにちは。

津島市総合戦略策定委員会の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

みなさま方におかれましては、津島市総合戦略策定委員をお忙しい中お引き受けいただきまして、大変ありがとうございます。

日本では、人口減少、少子高齢化が大きな課題となっております。

国は、人口減少、少子高齢化に対応するため「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、地方を含めて国全体でこの問題に取り組んでいくこととしております。

津島市でも例外ではなく、平成22年をピークとして人口減少が急速に進んでおります。この喫緊の課題であります人口減少に歯止めをかけるために、出生数の増加、人口の流出の抑制、そして人口の流入の促進、このようなことを数々の施策をもって考えていく必要があります。

このため、平成27年から31年までの5年間における目標や施策の基本的な方向、そして具体的な施策をまとめた「津島市総合戦略」を策定することといたしました。

今年度は、職員が知恵を出し合い、職員自らが考えて、協力しながら地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用し「つしま夢まちづくり事業」をはじめといたしまして、天王川公園をアダプトプログラムで盛り上げようという「花ごよみ事業」、そして、津島市をもう一度見直していただきたいということで、全国から写真コンテストという形で、まずは津島に来

ていただくという「Rediscovery Tsushima 写真コンテスト事業」、そしてまた、来ていただいた時に案内が必要であるということで、「おもてなしコンシェルジュ人材育成事業」、津島市の歴史がある町家、住宅のモデルを全国コンペで多数のアイデアをいただくという「津島型町家住宅モデルプラン事業」、官学で連携して行い津島に人を呼び込むような商品開発をしようとする「官学連携協働開発事業」を進めています。これらを先ほどお話いたしました、交付金を活用しまして、観光、まちづくり、様々な取組みをしているわけでございます。

津島市といたしましても今後の施策を検討していく上で、みなさま方には人口減少、地域の活性化にどう対応していくか、どういった施策が津島市にとって必要であるかということなど、ご協議していただきまして、津島市総合戦略の策定にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

結びに当たりまして、みなさま方の益々のご健勝を祈念いたしまして、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。

どうか津島市の総合戦略のご検討を、よろしくお願いいたします。

委員紹介

(名簿で代替)

資料確認

次第1 委員長及び副委員長の選出について

- ・委員長に江口委員、副委員長に山本委員を選出
- ・江口委員長あいさつ

次第2 議題

議題1 津島市総合戦略について

議題2 スケジュールについて

事務局より説明

〈委員〉

- ・津島市の特性を考えながら進めるのが良いのでは。

〈事務局〉

- ・津島市の課題を考えながら検討を行う。

議題3. 津島市の将来人口のシミュレーションについて

事務局より説明

〈委員〉

- ・推計を行うにあたり、国が示している出生率は難しいのでは。

〈事務局〉

- ・津島市としてどうしていくのか、委員会で今後検討していただく。

〈委員長〉

- ・社会移動を考慮したシミュレーションが必要。

議題4 津島市の人口動向等について

議題5 アンケート調査結果について

事務局より説明

〈委員長〉

- ・総合戦略のメインテーマは人口の問題。
- ・特に転入、転出についてが大きなテーマとなる。
- ・津島市はほとんどの市町村に対して転出超過である。近隣市への転出も多い。
- ・議論は転出のことになるのではないか。

〈委員〉

- ・津島市には、歴史的に素晴らしいものがある。
- ・津島市に住んでいくことは素晴らしいことだと示していくことが重要。

〈委員〉

- ・愛西市への転出が多いが、愛西市のどこへ行っているのか分からない。
- ・就職に関しては、名古屋への就労が多く、雇用対策も必要では。

〈委員長〉

- ・津島市は、子育て環境や都市のイメージが悪い。

〈委員〉

- ・住宅需要は、西尾張中央道より東。
- ・津島市と愛西市で移動があっても、両市とも人口は減少している。

〈委員〉

- ・地方創生には、仕事の創造と観光の創造が必要。
- ・仕事が増えれば人が増える。企業誘致をどうするかも重要。

〈委員長〉

- ・津島市には巨大な雇用を生む吸引力はない。突然大きな企業が来ることはない。
- ・人口については、交流人口、定住人口を増やすという二つの方向がある。

- ・交流人口は、観光振興であり、交流人口を拡大するという考え方はある。
- ・定住人口は、雇用と流出の対策である。
- ・津島市は、交流人口を増やす施策は可能であるが、それだけではいけない。
- ・定住人口も対策を行い、トータルで人口を維持していく必要がある。

〈委員〉

- ・どの人口を増やすのか議論する必要がある。

〈委員長〉

- ・流出を抑える施策、お金のかからない施策、費用に見合う施策の議論が必要。

〈委員〉

- ・隣接している愛西市との間で行き来があるのは当然だが、転出超過は事実である。

〈委員長〉

- ・高齢者が増えることでマイナス面もあるが、福祉や介護で雇用が生まれるプラス面もある。

議題6. 津島市総合戦略策定委員会関係資料（ハローワーク津島作成）

資料の説明

挨拶

（星野副市長）

ありがとうございました。

なかなか整わないデータもありますので、途中経過のデータを示しながら、ご意見をいただきました。

いろいろなことについて、みんなやらんといかんということになる。

隣の小さなところにも人口が取った取られたということ、大きな枠組みで東京との関係でどうするのかということもあり、いろいろなことを行う必要がある。そういうことが、総合戦略の総合という意味である。一つ何かやったら、それで解決するというのではない。ここ10年ぐらいリーマンショックから世間は回復しているが、津島は改善しておらず、下り坂をたどっている。人口のみならず、町の姿も同様である。変えなくても良いという声があるかもしれないが、変えないとおそらく衰退していく。生きるために、持続性を持つために変えていく必要がある。

データの中で気になることは、若い女性が特に流出していることである。人口ピラミッドから5年、10年先に何人減ると推計することができるが、5年前の25歳の女性と今の30歳の女性を比べると普通の減り方以上に減っている。増田レポートで限界集落になると示されたような減り方の率である。原因が何であるかについては、検討すべきであるが、なかなか思い浮かばない。様々なことをやらないと、若い女性の減少は止まらないであろう。

女性の就業促進についての中日新聞の記事があったが、津島市は総体的には女性の比率が高い町である。紡績業が盛んであった時代から、今でも女性の比率が高いが、実は高齢の女性が

多い。女性がいないと子どもが生まれない。必然的に生まれる子どもの数は減る。6年前の出生数と、今年は100人も減っている。そこをどうするのか。

津島市の悪い噂があるということのみではなく、基本的にどこかを変えていく必要があると思う。総合的なということで、いろんなことをしないといけないと考えている。

その具体的な話を皆様から、これから半年間いただければと思います。よろしくお願いいたします。

その他、閉会

事務局より

次回、第2回の日程等は改めて通知させていただく。